

地理教育の支援に向けた課題の整理と具体的取組への提言

～国土の豊かな恵みを次の世代に引き継ぐために～

資料（前半）

平成 28 年 3 月

国土地理院地理教育勉強会

（平成 28 年 5 月補遺）

資料1：日本地理学会地理教育専門委員会「大学生・高校生の地理認識の調査報告」  
(2014)

**【調査結果の概要】**

**<高校生調査>**

**1、国の位置がわからない。**

国の位置は、66%で1/3の生徒が地図上でどこにあるのか分からない状況です。前回調査に比べて10%ほど正答率が向上しました。これは小・中学校における社会科教育、地理教育の改善の成果と言えるでしょう。しかし、十分とは言えません。スイスの正答率は36%、ベトナムは43%、フィンランドは55%です。120年にもおよぶ友好の歴史があるトルコの位置の正答率も56%にとどまっています。これらの国はいずれも国際関係を考える上でも重要な国です。地理教育のさらなる改善・充実が必要です。

**2、食料問題・環境問題の理解は不十分。**

日本の食料自給率の正答率は、前回36%で今回49%へと向上しましたが、いまだに2人に1人が理解していません。エルニーニョの発生海域の正答率は、前回37%で今回38%。食糧問題や環境問題への理解は不十分と言わざるをえません。一方、北方領土の正答率は80%から91%へと向上しました。小学校以来の社会科教育の中で繰り返し扱われています。現状をきちんと把握することは、これからの社会を生きる日本人として不可欠な素養です。必要な内容は、繰り返しかえし扱うことが重要です。

**3、地理履修者は世界の諸問題に対する認知は高い。**

地理履修者と未履修者の混在する高校の分析では、すべての国の位置が地理履修者で上回り、正答率に有意な差があることが分かりました。同時に、地理的基本事項に対する設問では、食料自給率、原油の輸入先、エルニーニョの発生海域、時差においても地理履修者の正答率に有意な差があることがわかりました。地理の学習は、国際社会に生きる日本人の育成に大きな意味があるといえます。

**<大学生調査>**

**1、前回調査より国の認知度はさらに低下。**

今回調査の10か国中、8カ国は前回と同じ国を質問していますが、いずれも正答率は低下しています。これまでの地理学習の軽視が国際感覚を失わせるという結果になっているのではないのでしょうか。

**2、地理履修者は国の認知度が高い。**

今回の調査では、高校における地理履修者は、すべての国の位置の位置で未地理履修者を上回り、インドを除いて正答率に有意な差があることがわかりました。地理履修者と未履修者の差は、スイスとベトナムが15ポイント、フィンランドでは14ポイント、南アフリカ共和国とトルコ共和国が10ポイントにもなります。大学生は、卒業後日本社会を担っていく貴重な存在です。バランスのとれた国際感覚を身に付けさせるためにも高校地理教育の果たす役割を再認識する必要があります。

## 大学生の地図利用と観光地認知の実態

落合康浩 (日本大・文理)

### 1 はじめに

現在、日本では「観光立国」を目指す様々な取り組みが盛んである。観光地への来訪者を拡大するためには、それらの知名度を高めることに加えて、その地理的な位置の認知度を高めることも重要である。ある観光地を未だ訪れたことのない人は、その位置を認知する過程で地図による確認作業を行うことになる。すなわち、観光地の位置の認知度には、人々の地図への関心、地図の利用頻度が大きく関わると考えられる。

そこで本研究は、今後の観光需要の主要な担い手として期待される大学生を対象として、地図の利用と観光地の地理的な位置の認知についてその実態を調査し、両者の関係について考察するものである。

調査は、2014年4月に、東京都内と横浜市内にある大学へ通う学生を対象として実施し、1年生を中心とした211名から有効回答を得た。

### 2 地理の履修と地図利用の実態

#### 2-1 高校での地理履修と地図への関心

高等学校において地理AまたはB、もしくは両方を履修した学生は、211名中106名とほぼ半数であった。地図をみること(読図)が好きか否かについては、「とても好き」「まあまあ好き」と回答した者をあわせると96名(45.5%)であり、「好きでも嫌いでもない」とした82名(38.9%)、「あまり好きではない」「嫌い」をあわせた33名(15.6%)のいずれよりも多かった。とりわけ、高校での地理履修者は6割以上が地図をみるのが好きと回答しており、地理の履修と地図への関心には相関があるものと考えられる。

#### 2-2 地図の種類別にみた利用実態

「地形図・地勢図など国土地理院発行の紙地図」を「よく使う」とした者は10名(4.7%)とごくわずかで、「あまり使わない」(113名:53.6%)、「使ったことがない」(88名:41.7%)という回答が多い。よく使うとした10名中9名も地理学科の学生・地理学専攻の院生であることから、国土地理院発行の紙地図は学生が一般に使用するものではないことがわかる。

「地図帳」を「よく使う」者は30名(14.2%)、「冊

子の道路地図」を「よく使う」者は24名(11.4%)で、いずれも「あまり使わない」「使ったことがない」者が大半を占める。「地図帳」は義務教育を含めれば学校で必ず使用したはずで「使ったことがない」とした者は少ないが、「道路地図」は「使ったことがない」とした者も多く、学生はこれらアナログの地図をあまり使用していないことがわかる。

一方で、「PCでみるWeb上の地図」については、112名が「よくみる」と回答しており、これに「プリントアウトして利用する」とした15名を加えると127名(60.2%)がよく利用していることになる。また「携帯端末の地図アプリケーション」は126名(59.7%)が「よく使う」と回答した。このようにデジタル地図については、半数以上の学生がよく利用していることがわかる。

### 3 観光地とその位置の認知

次ページの表1・表2に掲げる全国20の主要観光地について、その観光地を訪れた経験と、各々の観光地の地理的な位置に関する認知の実態を調査した。

回答者の大半は南関東出身者であり、中学の修学旅行の定番である「奈良市」や、出身地から近い「日光」「箱根」などは来訪経験が多い。ただし、多くの観光地は来訪経験のない者が多数を占めている(表1)。すなわち、各観光地の位置の認知には、地図による知識の有無が大きく関わっていると考えられる。

位置の認知に関する調査では被験者に日本列島の白地図(縮尺1:600万程度、都道府県境を入れていないもの)を提示し、それぞれの観光地が日本のどこに位置するか、白地図上に直接記入してもらった(表2)。

観光地の正しい位置をほぼ理解している(その位置を正確に、あるいは正確な位置から50kmまでの範囲内に記入している)者の割合が最も高いのは奈良市(68.7%)で、以下その割合が高い順に日光(61.6%)、富士山(60.7%)、金沢市(58.3%)、長崎市(55.5%)、箱根(53.1%)などとなっている。これらの観光地については、位置を誤認している者が少なく、位置の記入がない者も少ない。したがってこれらは多くの学生

がその存在はもとより、その位置までよく認知している観光地だということができる。

一方、位置を正確に認知している者が少ないのは、松島 (18.5%)、草津温泉 (17.1%)、平泉 (15.2%)、道後温泉 (12.3%)、立山 (10.4%)、蔵王 (7.1%)、津和野 (6.2%) などである。これらについては、位置を誤認している者が多く、位置の記入のない者も多い。つまり、それらの観光地は存在が知られていないか、存在は知っていてもその位置を想起できない学生の多い観光地ということになる。

#### 4 観光地の認知と地図利用との関係

来訪経験者の多い奈良市、日光、箱根などは、その所在地も多くの人にほぼ正確に認知されている。これに対して津和野、立山、道後温泉など、来訪経験者の少ない観光地は、その正確な位置を認知している者が少ない。ただし金沢市のように来訪経験者が少ない観光地でも、多くの者にその位置がほぼ正確に認知されている事例もあり、草津温泉のように来訪経験者の割合よりも、位置を正確に認知している者の割合が低い例もある。観光地を訪れた経験の有無は、観光地の位置の認知に関わる大きな要因ではあるが、決定的な要因というわけではないということになる。

これについて地図をみるのが好きな者に限ってみると、20の観光地全てにおいて、その所在地をほぼ正確に認知している割合が高くなっている。また、例えば「地図帳をよく使う」とした者ではその割合は高く、半数以上の観光地では、地図をみるのが好きな者の場合以上にその割合が高くなっている。すなわち、観光地の所在地の認知には、普段の地図利用が大きく影響しており、地図をみるのが好きな者は、地図を通して位置情報に接する機会に恵まれるため、観光地の存在やその正確な位置を認知するのに有利であるといえる。

表1 観光地へ行ったことのある回答者の割合

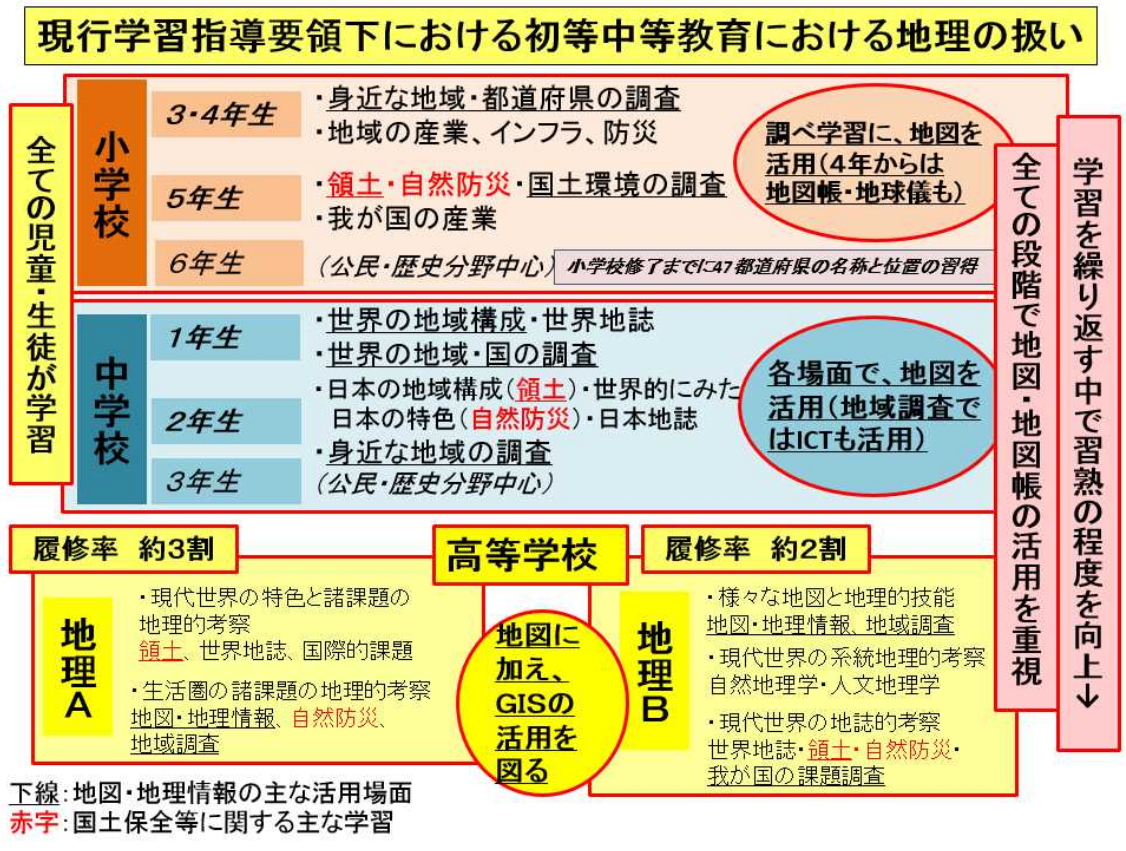
観光地	%	観光地	%
函館	31.8	蔵王	11.8
飛騨高山	18.1	別府	10.0
金沢市	15.6	草津温泉	24.2
津和野	2.8	道後温泉	8.1
長崎市	25.1	箱根	64.5
宮島	16.6	富士山	38.4
奈良市	72.0	立山	6.2
伊勢神宮	20.9	松島	13.7
日光	71.1	鳥取砂丘	5.2
平泉	13.7	知床	7.6

表2 観光地の位置の認知

	A		B		C		D		E		F	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
函館	57	27.0	42	19.9	9	4.3	24	11.4	59	28.0	20	9.5
飛騨高山	20	9.5	34	16.1	34	16.1	22	10.4	18	8.5	63	30.3
金沢市	27	12.8	96	45.5	36	17.1	9	4.3	9	4.3	34	16.1
津和野	5	2.4	8	3.8	5	2.4	1	0.5	13	6.2	179	84.8
長崎市	31	14.7	86	40.8	46	21.8	17	8.1	7	3.3	24	11.4
宮島	12	5.7	33	15.6	28	13.3	7	3.3	16	7.6	115	54.5
奈良市	91	43.1	54	25.6	24	11.4	6	2.8	12	5.7	24	11.4
伊勢神宮	29	11.8	51	24.2	12	5.7	18	8.5	35	16.6	70	33.2
日光	45	21.3	85	40.3	50	23.7	5	2.4	5	2.4	21	10.0
平泉	9	4.3	23	10.9	49	23.2	37	17.5	19	9.0	74	35.1
蔵王	5	2.4	10	4.7	28	13.3	20	9.5	15	7.1	127	60.2
別府	26	12.3	30	14.2	28	13.3	10	4.7	15	7.1	102	48.3
草津温泉	5	2.4	31	14.7	58	27.6	13	6.2	17	8.1	87	41.2
道後温泉	19	7.1	11	5.2	4	1.9	3	1.4	18	8.5	100	47.8
箱根	50	23.7	62	29.4	33	15.6	13	6.2	11	5.2	42	19.9
富士山	38	18.0	90	42.7	46	21.8	10	4.7	8	3.8	19	9.0
立山	12	5.7	10	4.7	4	1.9	7	3.3	8	4.3	169	80.1
松島	26	12.3	13	6.2	18	8.5	8	3.8	30	14.2	119	56.4
鳥取砂丘	16	7.6	34	16.1	33	15.6	35	16.6	56	26.5	37	17.5
知床	44	20.9	16	7.6	17	8.1	16	7.6	51	24.2	67	31.8

A: 正確な位置を記入 B: 正確な位置から概ね50km以内に記入 C: 正確な位置から概ね100km以内に記入  
D: 正確な位置から100km以上離れているが、同じ地方に記入 E: 謝った位置に記入 F: 記入なし

資料3：現行学習指導要領下における初等中等教育における地理の扱い（学習指導要領、文部科学省資料などより作成）



資料4：学習指導要領の変遷（高等学校社会科） 森田康夫『『国土教育』（その2）高等学校地理歴史科教育を考える—歴史の深層としての「国土」、その構造と未来への展望—』（JICE REPORT vol.17）（2010）

	高 等 学 校		
	1年	2年	3年
昭和22年度版	一般社会 5(必須)	時事問題 5 人文地理 5 西洋史 5 東洋史 5	1科目 選択
昭和26年度版	一般社会 5(必須)	時事問題 5 人文地理 5 世界史 5 日本史 5	1科目 選択
昭和31年度版		人文地理 3~5 世界史 3~5 日本史 3~5 (必須) 社会 3~5	2科目 選択
昭和35年告示 昭和38年施行		地理 A 3 地理 B 4 世界史 A 3 世界史 B 4 (必須) 日本史 3 (必須) 政治・経済 2 (必須) 倫理・社会 2	1科目 選択 1科目 選択
昭和45年告示 昭和48年施行		地理 A 又は 地理 B 3 世界史 3 日本史 3 (必須) 政治・経済 2 (必須) 倫理・社会 2	2科目 選択 (地理A=系統地理 地理B=地誌)
昭和53年告示 昭和57年施行	現代社会 4 (必須)	地理 4 世界史 4 日本史 4 政治・経済 2 倫理 2	選 択
平成元年告示 平成6年施行	地理歴史科	世界史 A 2 世界史 B 4 日本史 A 2 日本史 B 4 地理 A 2 地理 B 4	1科目 選択必修 1科目 選択必修
	公民科	現代社会 4 政治・経済 2 倫理 2	現社:または政経倫理の選択必修
平成11年告示 平成15年施行	地理歴史科	世界史 A 2 世界史 B 4 日本史 A 2 日本史 B 4 地理 A 2 地理 B 4	1科目 選択必修 1科目 選択必修
	公民科	現代社会 2 政治・経済 2 倫理 2	現社:または政経倫理の選択必修
	総合的な学習の時間		

資料5：文部科学省「高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数（現行学習指導要領）」

高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数

〔改訂後〕

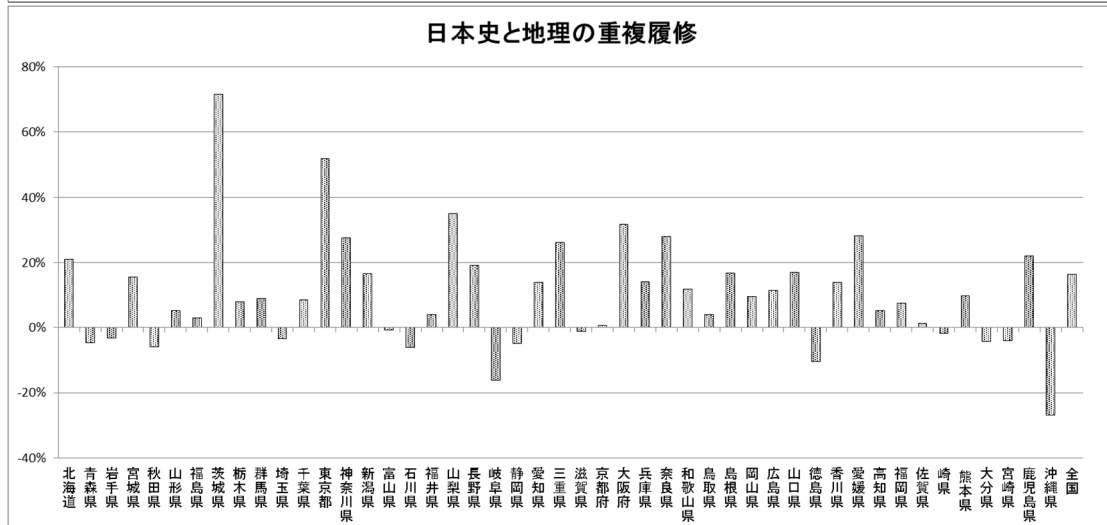
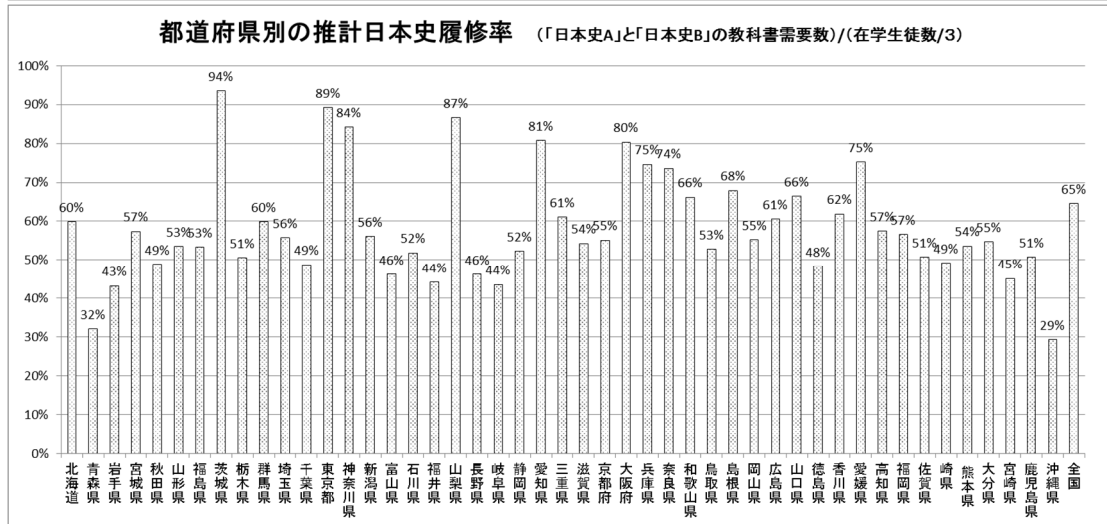
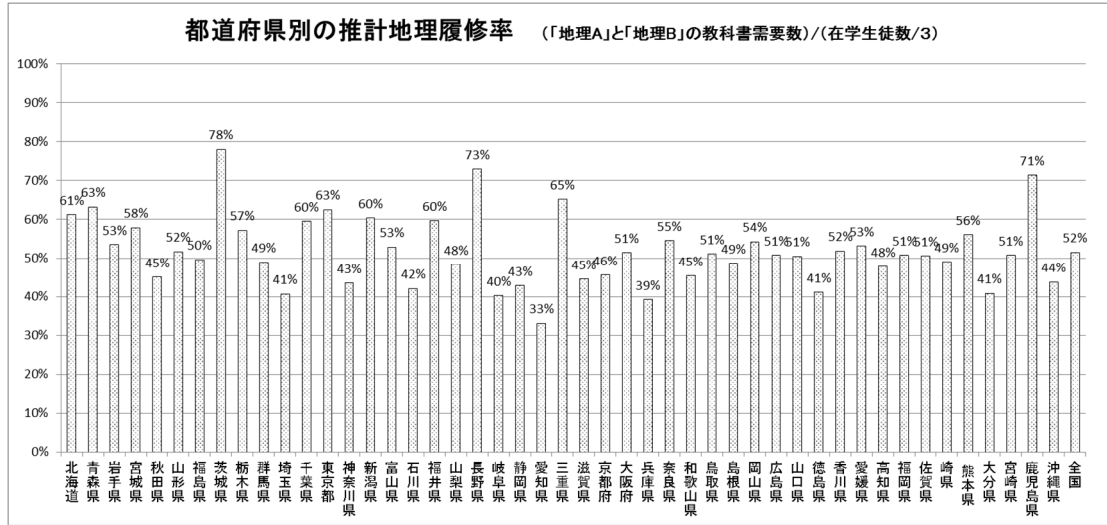
〔現行〕(前学習指導要領)

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	国語総合	4	○2単位まで認可
	国語表現	3	
	現代文A	2	
	現代文B	4	
	古典A	2	
	古典B	4	
地理歴史	世界史A	2	〓○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで認可
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	5	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	〓「科学と人間生活」を含む2科目又は基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
	地学	4	
	理科課題研究	1	
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	〓○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	コミュニケーション英語基礎	
コミュニケーション英語Ⅰ		3	
コミュニケーション英語Ⅱ		4	
コミュニケーション英語Ⅲ		4	
英語表現Ⅰ		2	
英語表現Ⅱ		4	
英語会話		2	
家庭	家庭基礎	2	〓○
	家庭総合	4	
	生活デザイン	4	
情報	社会と情報	2	〓○
	情報の科学	2	
総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで認可

教科	科目	標準単位数	必修科目
国語	国語表現Ⅰ	2	〓○
	国語表現Ⅱ	2	
	国語総合	4	
	現代文	4	
	古典	4	
	古典讀読	2	
地理歴史	世界史A	2	〓○
	世界史B	4	
	日本史A	2	
	日本史B	4	
	地理A	2	
	地理B	4	
公民	現代社会	2	「現代社会」又は「倫理」「政治・経済」
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学基礎	2	〓○
	数学Ⅰ	3	
	数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	理科基礎	2	〓2科目（「理科基礎」「理科総合A」又は「理科総合A」又は「理科総合B」を少なくとも1科目含む。）
	理科総合A	2	
	理科総合B	2	
	物理Ⅰ	3	
	物理Ⅱ	3	
	化学Ⅰ	3	
	化学Ⅱ	3	
	生物Ⅰ	3	
	生物Ⅱ	3	
	地学Ⅰ	3	
地学Ⅱ	3		
保健体育	体育	7~8	○
	保健	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	〓○
	音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2	
	書道Ⅲ	2	
	外国語	オール・コミュニケーションⅠ	
オール・コミュニケーションⅡ		4	
英語Ⅰ		3	
英語Ⅱ		4	
リーディング		4	
ライティング		4	
家庭	家庭基礎	2	〓○
	家庭総合	4	
	生活技術	4	
情報	情報A	2	〓○
	情報B	2	
	情報C	2	
総合的な学習の時間		3~6	○

下線 必修科目を変更した教科  
 科目構成を変更した箇所

資料6：「都道府県別の推計地理及び日本史履修率」（2014年4月教科書需要数より推計。日本地理学会調べ。）



資料7：大久保 敦「高校大学7年間を通じた科目履修実態調査（自然科学系科目・社会科学系科目）」大阪市立大学「大学教育」第7巻第2号（2010）

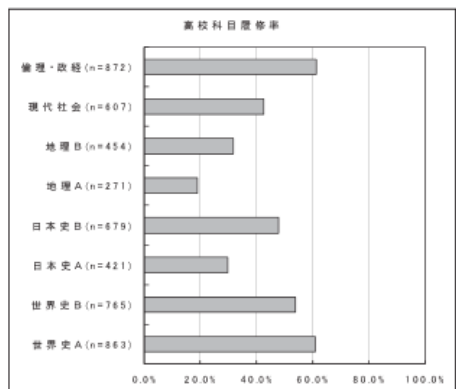


図3 高校地歴公民科目別履修率

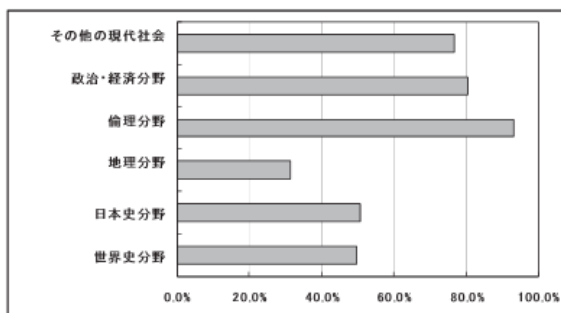


図4 大学全学共通教育科目(社会科学分野)履修率

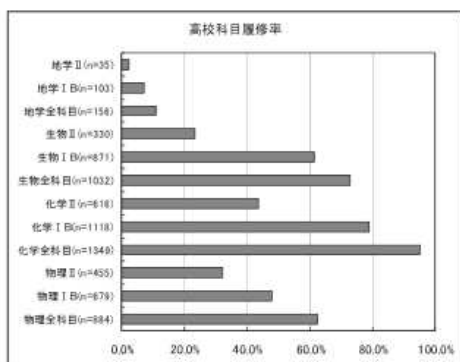


図1 高校理科科目別履修率

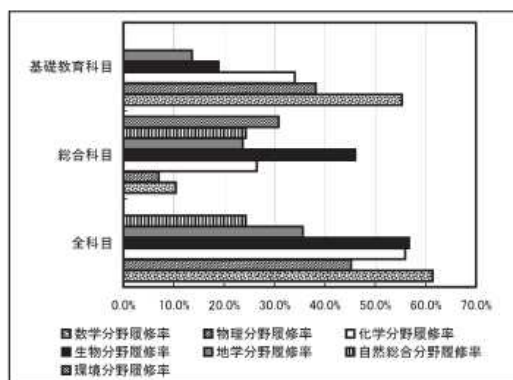


図2 大学全学共通教育科目(自然科学分野)履修率



図5 理系学生の理科・自然科学科目履修



図6 文系学生の理科・自然科学科目履修

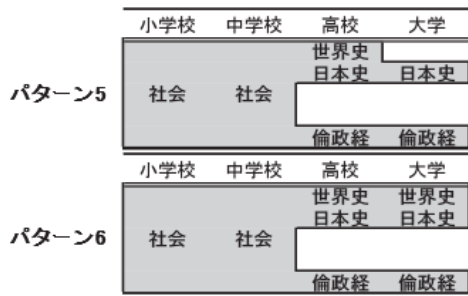


図7 理系学生の地歴公民 - 社会科学科目履修

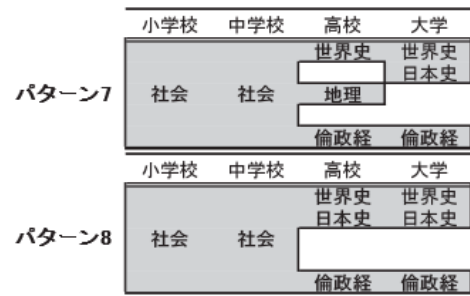


図8 文系学生の地歴公民 - 社会科学科目履修

表1 高校未履修率と高校大学未履修率の比較

	地学	物理	地理	日本史
高校未履修率	89.0%	40.9%	55.5%	33.7%
高大未履修率	58.7%	31.7%	48.1%	19.0%

資料 8 : 各都道府県の公立学校教員採用試験結果における地理と歴史の割合

県	年度	地理	歴史		
				世界史	日本史
茨城県	H23	3	4	2	2
	H24	3	9	4	5
	H25	4	9	4	5
	H26	5	12	6	6
	H27	6	16	6	10
	H28	5	18	7	11
栃木県	H28	1	4		
新潟県	H28	1	2		
静岡県	H24	3	11	5	6
	H25	3	8	5	3
	H26	4	10	3	7
	H27	3	8	3	5
	H28	3	7		
岡山県	H28	2	5	3	2
広島県	H25	5	8	3	5
	H26	0	1	0	1
	H27	1	2	1	1
	H28	1	3	2	1
山口県	H26	1	2	1	1
	H27	1	4	2	2
	H28	1	3	2	1
香川県	H28	2	2	1	1
福岡県	H28	0	12		
佐賀県	H27	1	2	1	1
	H28	1	2	1	1
長崎県	H28	1	4	3	1
大分県	H23	1	2	1	1
	H24	1	1	1	0
	H25	0	1	1	0
	H26	1	2	1	1
	H27	1	1	1	0
	H28	1	1	0	1
熊本県	H28	2	1	1	0
宮崎県	H28	1	1	0	1
計		69	178		
割合		28%	72%		

資料9：平成28年度大学入試センター試験実施結果の概要

4 教科別受験者数及び選択率（追・再試験含む。）

(1) 各教科の受験状況

( )内は前年度

区分	国語	地理歴史	公民	数学①	数学②	理科①	理科②	外国語 (筆記)	外国語 (リスニング)	受験者数
受験者数	507,899 (501,707)	382,080 (375,727)	201,034 (198,513)	398,579 (397,700)	361,273 (359,827)	162,560 (129,959)	250,472 (270,044)	530,748 (524,506)	523,065 (516,730)	536,828 (530,537)
教科選択率	94.6 (94.6)	71.2 (70.8)	37.4 (37.4)	74.2 (75.0)	67.3 (67.8)	28.4 (24.5)	46.7 (50.9)	98.9 (98.9)	97.4 (97.4)	

- (注) 1. 教科選択率=各教科受験者数/受験者数×100  
2. 各教科とも実受験者数を表す。

(2)-① 地理歴史の受験状況

区分	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	延受験者数
受験者数	1,451人	84,144人	2,473人	160,859人	1,805人	147,956人	398,688人
科目選択率	0.4%	21.1%	0.6%	40.3%	0.5%	37.1%	

- (注) 1. 科目選択率=各科目受験者数/地理歴史延受験者数×100  
2. 解答科目を特定できないものは除く。(以下、各表において同じ。)

(2)-② 公民の受験状況

区分	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、 政治・経済	延受験者数
受験者数	80,254人	26,046人	49,194人	48,729人	204,223人
科目選択率	39.3%	12.8%	24.1%	23.9%	

- (注) 科目選択率=各科目受験者数/公民延受験者数×100

(3)-① 地理歴史と公民の受験状況

区分 受験科目数	地理歴史						公民				延受験者計	実受験者
	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、 政治・経済		
1科目	766人	36,525人	1,478人	82,916人	1,199人	117,087人	25,411人	9,207人	21,162人	16,593人	312,344人	312,344人 [ 68.3% ]
2科目	684人	47,607人	992人	77,930人	603人	30,865人	54,842人	16,837人	28,031人	32,133人	290,524人	145,262人 [ 31.7% ]
計	1,450人 < 0.2% >	84,132人 < 14.0% >	2,470人 < 0.4% >	160,846人 < 26.7% >	1,802人 < 0.3% >	147,952人 < 24.5% >	80,253人 < 13.3% >	26,044人 < 4.3% >	49,193人 < 8.2% >	48,726人 < 8.1% >	602,868人 < 100.0% >	457,606人 [ 100.0% ]

- (注) 1. [ ]内は実受験者の構成率を表し、< >内は延受験者の構成率を表す。  
2. 複数科目を受験した者については、解答科目を特定できない科目があるものは除く。(以下、理科⑤-①以外の各表において同じ。)  
3. 小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。(以下、各表において同じ。)

(3)-② 地理歴史と公民の2科目受験者(145,262人)の科目選択内訳

教科 科目	地理歴史						公民			
	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、 政治・経済
世界史A		72人 [ 0.0% ]	68人 [ 0.0% ]	40人 [ 0.0% ]	43人 [ 0.0% ]	267人 [ 0.2% ]	86人 [ 0.1% ]	84人 [ 0.1% ]	24人 [ 0.0% ]	
世界史B			49人 [ 0.0% ]	6,691人 [ 4.6% ]	19人 [ 0.0% ]	6,417人 [ 4.4% ]	11,503人 [ 7.9% ]	5,674人 [ 3.9% ]	6,087人 [ 4.2% ]	11,167人 [ 7.7% ]
日本史A				26人 [ 0.0% ]	16人 [ 0.0% ]	424人 [ 0.3% ]	83人 [ 0.1% ]	284人 [ 0.2% ]	38人 [ 0.0% ]	
日本史B					24人 [ 0.0% ]	3,143人 [ 2.2% ]	27,091人 [ 18.6% ]	9,036人 [ 6.2% ]	15,306人 [ 10.5% ]	16,571人 [ 11.4% ]
地理A						304人 [ 0.2% ]	39人 [ 0.0% ]	138人 [ 0.1% ]	13人 [ 0.0% ]	
地理B							12,285人 [ 8.5% ]	1,412人 [ 1.0% ]	3,565人 [ 2.5% ]	3,984人 [ 2.7% ]
現代社会								286人 [ 0.2% ]	2,346人 [ 1.6% ]	336人 [ 0.2% ]
倫理									221人 [ 0.2% ]	
政治・経済										

- (注) 1. [ ]内は2科目実受験者の構成率を表す。  
2. 同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。

## (5)－① 理科①の受験状況

区分	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	延受験者計
受験者数	18,307人	105,949人	133,666人	47,096人	305,018人
科目選択率	6.0%	34.7%	43.8%	15.4%	100.0%

(注) 1. 2科目のうち一方の解答科目が特定できなかった場合も含む。

(注) 2. 科目選択率=各科目受験者数/理科①延受験者計×100

## (5)－② 理科①の受験者(152,471人)の科目選択内訳

科目	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
	物理基礎	14,086人 [ 9.2% ]	2,925人 [ 1.9% ]	1,273人 [ 0.8% ]
		化学基礎	88,364人 [ 58.0% ]	3,478人 [ 2.3% ]
			生物基礎	42,345人 [ 27.8% ]

(注) [ ]内は理科①の実受験者の構成率を表す。

## (5)－③ 理科②の受験状況

区分 受験科目数	物理	化学	生物	地学	延受験者計	実受験者
1科目	15,293人	17,086人	20,407人	1,019人	53,805人	53,805人 [ 21.5% ]
2科目	140,481人	194,658人	57,016人	1,111人	393,266人	196,633人 [ 78.5% ]
計	155,774人 < 34.8% >	211,744人 < 47.4% >	77,423人 < 17.3% >	2,130人 < 0.5% >	447,071人 < 100.0% >	250,438人 [ 100.0% ]

(注) [ ]内は実受験者の構成率を表し、&lt; &gt;内は延受験者の構成率を表す。

## (5)－④ 理科の科目選択方法A(理科①から2科目選択)の受験者(133,343人)の科目選択内訳

科目	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎
	物理基礎	8,696人 [ 6.5% ]	2,152人 [ 1.6% ]	1,104人 [ 0.8% ]
		化学基礎	77,377人 [ 58.0% ]	2,981人 [ 2.2% ]
			生物基礎	41,033人 [ 30.8% ]

(注) [ ]内は理科の科目選択方法Aの実受験者の構成率を表す。

## (5)－⑤ 理科の科目選択方法B(理科②から1科目選択)の受験者(34,677人)の科目選択内訳

区分	物理	化学	生物	地学	計
受験者数	11,858人	11,517人	11,034人	268人	34,677人
科目選択率	34.2%	33.2%	31.8%	0.8%	100.0%

(注) 科目選択率=各科目受験者数/理科の科目選択方法Bの受験者数×100

## (5)－⑥ 理科の科目選択方法C(理科①から2科目及び理科②から1科目選択)の受験者(19,128人)の科目選択内訳

数 科	科 目	理 科 ①					計	
		物理基礎			化学基礎			生物基礎
		化学基礎	生物基礎	地学基礎	生物基礎	地学基礎		地学基礎
理 科 ②	物 理	2,589人 [ 13.5% ]	219人 [ 1.1% ]	101人 [ 0.5% ]	430人 [ 2.2% ]	80人 [ 0.4% ]	16人 [ 0.1% ]	3,435人 [ 18.0% ]
	化 学	2,345人 [ 12.3% ]	423人 [ 2.2% ]	43人 [ 0.2% ]	2,520人 [ 13.2% ]	94人 [ 0.5% ]	144人 [ 0.8% ]	5,569人 [ 29.1% ]
	生 物	438人 [ 2.3% ]	125人 [ 0.7% ]	5人 [ 0.0% ]	7,867人 [ 41.1% ]	277人 [ 1.4% ]	661人 [ 3.5% ]	9,373人 [ 49.0% ]
	地 学	18人 [ 0.1% ]	6人 [ 0.0% ]	20人 [ 0.1% ]	170人 [ 0.9% ]	46人 [ 0.2% ]	491人 [ 2.6% ]	751人 [ 3.9% ]
計	5,390人 [ 28.2% ]	773人 [ 4.0% ]	169人 [ 0.9% ]	10,987人 [ 57.4% ]	497人 [ 2.6% ]	1,312人 [ 6.9% ]	19,128人 [ 100.0% ]	

(注) [ ]内は理科の科目選択方法Cの実受験者の構成率を表す。

## (5)－⑦ 理科の科目選択方法D(理科②から2科目選択)の受験者(196,633人)の科目選択内訳

科目	物理	化学	生物	地学
	物理	138,942人 [ 70.7% ]	1,124人 [ 0.6% ]	415人 [ 0.2% ]
		化学	55,456人 [ 28.2% ]	260人 [ 0.1% ]
			生物	436人 [ 0.2% ]

(注) [ ]内は理科の科目選択方法Dの実受験者の構成率を表す。

資料 10：日本地理学会地理教育専門委員会「大学入試地理の拡大策」地理 50-1、2005

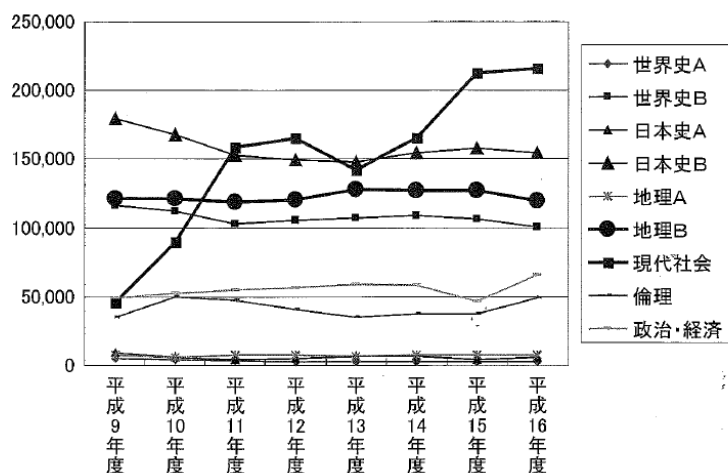


図1 大学入試センター試験地理歴史・公民受験者数の推移

表1 地理で受験可能な大学の数

国立大学		公立大学		文部科学省所管外		私立大学（4年制）	
大学数	学部数	大学数	学部数	大学校数	学科数	大学数	学部数
13	26	2	4	1	2	123	404

注…学部数には夜間（二部）を含む。2005年入試。駿台予備学校調べ。

表2 地理で受験可能な大学の地域別数

地域	国立大学		公立大学		文部科学省所管外		私立大学（4年制）	
	大学数	学部数	大学数	学部数	大学校数	学科数	大学数	学部数
北海道	1	1					10	32
東北							9	18
関東	5	13	2	4	1	2	42	170
中部	4	5					12	38
近畿	3	7					13	54
中国							9	19
四国							3	9
九州							24	60
沖縄							1	4
全国	13	26	2	4	1	2	123	404
全国総数：139大学・大学校（434学部・2学科）								

注…学部数には夜間（二部）を含む。2005年入試。駿台予備学校調べ。

表3 地理で受験可能な大学および受験不可能な大学とその割合

大学の種別	全国の大学・学部数		地理で受験が可能な大学・学部数			
	大学数	学部数	大学数	全国の大学総数 に占める割合	学部数	全国の学部総数 に占める割合
国立大学	83	383	13	15.7%	26	6.8%
公立大学	76	165	2	2.6%	4	2.4%
文部科学省所管外	8	13学科	1	12.5%	2学科	15.4%
私立大学	536	1,878	123	22.9%	404	21.5%
合 計	703	2,439	139	19.8%	436	17.9%

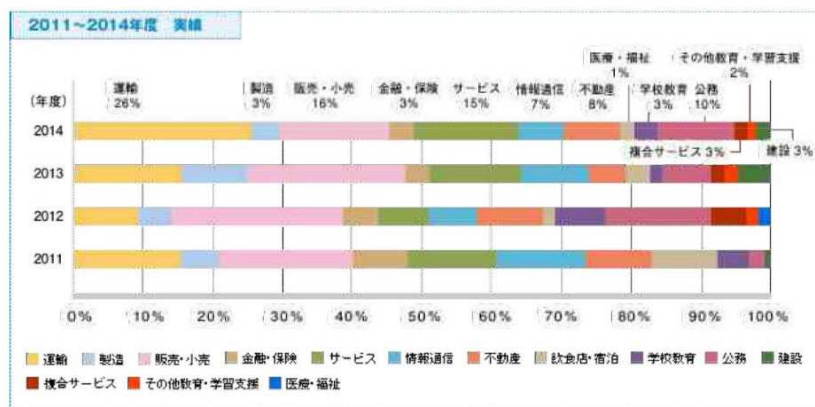
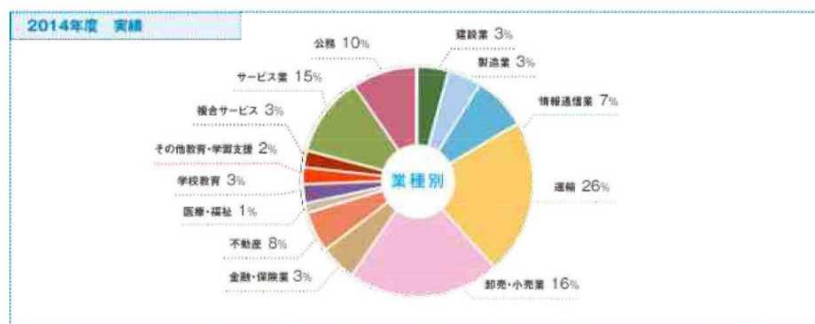
注…学部数には夜間（二部）を含む。2005年入試。駿台予備学校調べ。

資料 11：日本大学文理学部地理学科、立命館大学文学部地理学専攻、奈良大学文学部地理学科の卒業後の進路

## 日本大学文学部地理学科

地理学科では、自然・環境、地理情報、産業・社会、地域の他分野にわたって学び、幅広い実社会で活躍できる人材の育成を目指しています。とくに、新しい時代の要求に応じられるよう、近年注目されている地理情報システム(GIS)やリモートセンシングなどの技術、地球や地域の環境問題、都市の開発・再生、持続可能な農業、あるいはマーケティングやツーリズムなどを扱う科目を開講しています。

卒業後の進路は多方面にわたりますが、特に地理の知識や地図を活用できる能力を活かして、官庁、中学・高等学校の教員のほか、地理情報・市場調査・コンサルティング部門、流通、運輸、観光、不動産業界などへの就職が目立ちます。また、最近では大学院に進学する学生も増えています。



運輸・通信	日立物流、JR東日本、JR西日本、小田急電鉄、東葉高速鉄道、東急バス、はとバス ほか
不動産・建設	積水ハウス ほか
情報サービス	昭文社、ゼンリン、パスコ、NTT東日本、ウェザーニューズ、日本地図センター、日本測量協会 ほか
金融・保険	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行ほか
旅行・観光	ANAセールス、JTB、はとバス、京王観光 ほか
公務員	警視庁、消防庁、総務省統計局、千葉県教員、山梨県教員、佐賀県教員、私立校教員、市役所 ほか
その他	住友商事、JAかながわ、日本郵便、サーベイリサーチセンター、西武百貨店 ほか

## 立命館大学文学部地域研究学域地理学専攻

トップページ: 卒業後の進路 *After Graduation*

概要
期待する学生像
4年間の流れ
卒業後の進路
取得できる資格
卒業論文 一覧
お問い合わせ



【在学生向け】  
文献レビューカード  
地域研究学域パンフレット



### 2014年度 地理学専攻の就職・進学先

#### 官公庁

大阪府教育委員会、豊川市役所、防衛省 自衛隊幹部候補生、鞍田市役所、相模原市教育委員会、春日井市役所、茨城県教育委員会 香芝市役所、瀬戸市役所、京都府庁

#### 教育・芸術

学校法人西大和学園西大和学園中学校高等学校、関西美術協会

#### 大学院進学・専門学校

大阪市立大学大学院文学研究科、京都大学大学院地球環境学舎、立命館大学大学院文学研究科、北海道大学大学院経済学研究科

#### 観光・交通

四国旅客鉄道、近畿日本鉄道株式会社、日本航空株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、遠州鉄道株式会社

#### 建設・製造

岳南建設株式会社、大和ハウス工業株式会社、カルソニックカンセイ株式会社、株式会社LIXIL、北越工業株式会社、大東建託株式会社

#### コンサル・技術

株式会社バスコ、ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社、株式会社コーエイキャスター、株式会社かんこう、株式会社兵庫確認検査機構、JFE継手株式会社、サイバーステップ株式会社、株式会社ワキタ、株式会社ソフトウェアコントロール

#### 商社

コロネット株式会社、住電商事株式会社、東テック株式会社、株式会社アズノウアズ

#### サービス・小売

日本駐車場開発株式会社、株式会社セントラルフルーツ、株式会社アドプランナー、株式会社大丸松坂屋百貨店、みのり農業協同組合、ナカバヤシ株式会社、株式会社関通、株式会社坂東太郎、熊本県経済農業協同組合連合会、トランス・コスモス株式会社、日本食研株式会社、株式会社ネオキャリア、株式会社エディオン

#### 金融・保険

金沢信用金庫、京都中央信用金庫、株式会社三重銀行、共栄火災海上保険株式会社、日本郵便株式会社、明治安田生命保険相互会社、株式会社三井住友銀行、株式会社十六銀行、株式会社三井住友信託銀行、岩井コスモ証券

#### 医療・福祉

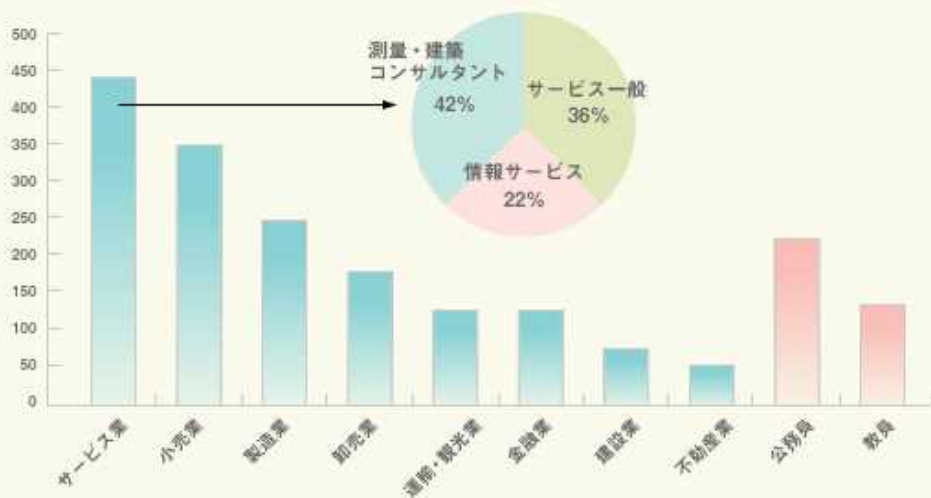
日本赤十字社愛媛県支部、医療法人社団行慶会大原記念病院

#### 出版・マスコミ

札幌テレビ放送株式会社、株式会社WOWOW

## 地理学科の主な進路先

主な民間企業（採用数上位企業：卒業生1919人のデータより）



### 建設・不動産業

大和ハウス工業、積水ハウス、大倉建設、東急コミュニティー、レオパレス21、エイブル

### 地図製造業

ゼンリン、昭文社

### 製造業

伊藤園、東洋エクステリア、立川ブラインド工業

### 卸・小売業

三重リコー、山星屋、トヨタ販売系、奈良ダイハツ、平和堂、近鉄百貨店、天満屋、ならコープ、セブン-イレブン・ジャパン

### 運輸・観光業

日本通運、日本郵政グループ、西日本旅客鉄道、近畿日本鉄道、阪急バス、奈良交通、トナミ運輸、JTB、東武トラベル、ANAセールス九州

### 金融業

三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、明治安田生命保険

### 測量業

パスコ、国際航業、写測エンジニアリング、アジア航測、かんこう、ウエスコ、阪南コーポレーション、内外エンジニアリング、玉野総合コンサルタント、国土情報開発

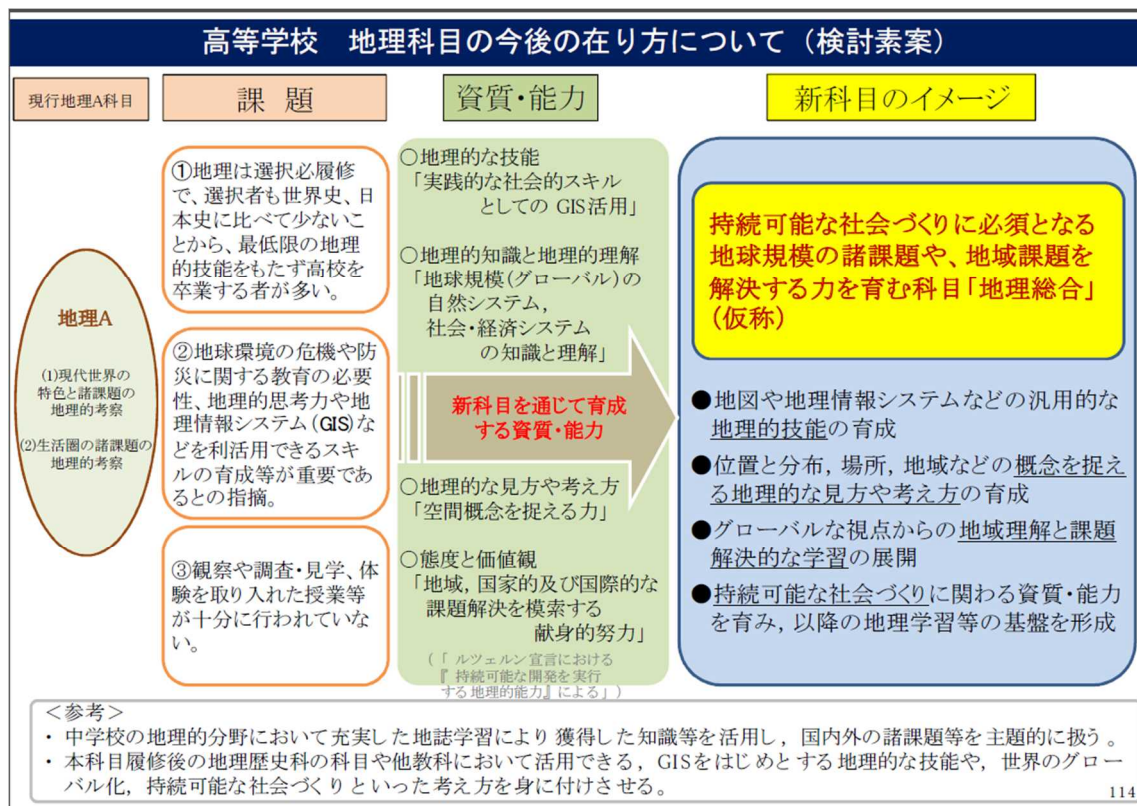
資料 12：大阪教育大学地理学科卒業生の卒業後の進路

	教職						地方公務員	進学	民間	その他	合計
		公立小	公立中	公立高	私立小	私立中・高					
平成15年3月卒業生	教員養成課程	5	2	1			2	2		2	9
	教養学科								1		1
平成16年3月卒業生	教員養成課程	5	5					1	1		7
	教養学科								3		3
平成17年3月卒業生	教員養成課程	3	3					3	1		7
	教養学科								2		2
平成18年3月修了/卒業生	大学院	1					1				1
	教員養成課程	3	3					1	1	1	6
	教養学科							2	1	2	5
平成19年3月修了/卒業生	大学院	4	2	1	1						4
	教員養成課程	10	9	1			1	4	4		19
	教養学科								5	1	6
平成20年3月修了/卒業生	大学院	2					2				2
	教員養成課程	4	3			1		1			5
	教養学科	2		1	1				2		4
平成21年3月修了/卒業生	大学院	2	2					1			3
	教員養成課程							4			4
	教養学科							1	7		8
平成22年3月卒業生	教員養成課程	12	10	2				2		2	17
	教養学科	1		1				1	1	6	9
合計	54	39	7	2	1	5	6	19	36	7	122
割合	44%	32%	6%	2%	1%	4%	5%	16%	30%	6%	

資料 13：先進的地理教育実践事例

	出典	学年	科目分野	単元又は学習のねらい	学習の概要	資料等
1	<p>国土地理院の資料が使われている授業の例</p> <p>中学校社会科における防災教育の実践 -地理・歴史・公民の分野連携を目指して- 新地理62-2(2014年12月)</p>	中1・2	地理	身近な地域の調査	水害常習地域へのフィールドワークを行い、自然堤防や旧河道などによる被害の差異や、地域住民の水害に対する生活上の知恵を学ぶ。	地形図 治水地形分類図
			歴史	江戸幕府の政治改革	江戸時代の政治史を学習しながら、トピック的に地域の過去の災害を扱う。過去の地形図を用い、かつての集落立地や地名に着目し、自然とともに生きてきた人々の姿を考える。	旧版地形図 治水地形分類図
		中3	公民	地方自治	地震災害時の「通学路防災マップ」と地域の「防災マップ」を作成し、生徒同士の意見交換をへながら、防災の視点から地方自治と町づくりの在り方について考える。	都市計画図
2	<p>総合的な学習における地域学習の例</p> <p>地域素材を利用した表現活動による地域との結びつき -神島小学校の総合的な学習の時間の学習活動を通して- 新地理62-2(2014年8月)</p>	小1～6	総合的な学習生活科	地域学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りに地域の昔の様子を聞き取る調査を行う。</li> <li>・地域で働く人々について調査し、地域の様子や人々の工夫を地図にまとめる。</li> <li>・地域の歴史を調べ、ガイドブックにまとめる。</li> <li>・地域の行事の由来を調べ、行事に参加し、手伝いをする。</li> </ul>	
3	<p>基盤地図情報を活用できる単元での具体例</p> <p>子どもの知覚環境と身近な地域の学習 新地理60-1(2012年4月)</p>	小3	社会科	学校のまわりのようす	<p>学校のまわりの様子について、地図を活用して調べ、場所による違いについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①屋上で方位を知り、主な公共施設や建造物の場所をとらえる。</li> <li>②通学路や学校の周りの様子を思いだし、地図に表現する。</li> <li>③学区域の地図を見ながら、学校の周りの様子を調べる計画を立てる。</li> <li>④学校の周りの探検する。</li> <li>⑤探検で観察したことをまとめ、地図に表現する。</li> <li>⑥地図をもとに調べてわかったことを発表する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①東西南北体操</li> <li>②B4の白紙</li> <li>③学区域の地図</li> <li>④学区域の地図</li> <li>⑤横造紙</li> <li>⑥⑤で作成した地図</li> </ul>
4	<p>シミュレーション教材の例</p> <p>大学における地理教育の実践報告 愛知学院大学教養部紀要60-1</p>	小4	社会科	地域の開発	幕末時代の農民の生活をゲーム化。土地条件の異なった耕地に作物を選定し、その年の天候をさいころで出し、収穫量が決定するというもの。	
		中	地理		北海道鉄道建設ゲーム 明治・大正期の札幌-釧路間にできるだけ安い費用で鉄道を敷設するシミュレーション。	
		高	地理		城下町の成り立ち ある都市を等高線で地形を表し河川や湿地などを示す程度の地図の中に5カ所の候補地を上げ、この中から選択して城下町を描く。	
5	<p>地図帳に親しむための指導の例</p> <p>「地図を授業で使う子」から「地図を実生活で使える子」へ こどもと地図 2015年度2学期号(帝国書院定期刊行冊子)</p>	小4	社会科		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて地図帳を使う単元において、15分間自由に地図帳に触る。この間、席を離れて友達と発見したことを交流しても良い。15分後気づいたことを自由に発表させる。</li> <li>・その後は毎回の授業の開始3分間で地図帳を使ったレクリエーションを行う。子どもが地図を使ったクイズを出題。正解した子どもが次の出題者となる。</li> </ul>	地図帳
6	<p>高校地理の地誌の授業例</p> <p>「サハラ以南のアフリカ」と向き合う 地理・地図資料2015年度2学期①号(帝国書院定期刊行冊子)</p>	高	地理	サハラ以南のアフリカの生活・文化	<ol style="list-style-type: none"> <li>①アフリカに対するイメージを書き出す。</li> <li>②新聞・テレビ・本からアフリカに関する情報を探す。少ないことを実感させる。</li> <li>③アフリカと身近な地域の自然を調べて比較</li> <li>④国旗を作る</li> <li>⑤教科書以外の資料を読み、イメージ以外のアフリカの一面を発見させる。</li> <li>⑥アフリカからの留学生や現時での活動経験者や会い、話をする。</li> <li>⑦アフリカとのパートナーシップを自分の学びと運動して考察させる。支援から「投資・ビジネス」という発想転換を促す。</li> <li>⑧フェアトレード商品のチョコレートを食べ、アフリカと自分が食べ物を通じて繋がっていることを実感させる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞・図書館の図書</li> <li>地図帳</li> <li>「ルワンダの折り」(ルワンダで起きたジェノサイド後の国情をレポートしたノンフィクション)</li> </ul>
7	<p>高校地理の地域調査の実践例</p> <p>調査を通じて身近な地域を知る～ヒートアイランド観測を取り入れた授業実践～ 地理・地図資料 2011年度3学期号(帝国書院定期刊行冊子)</p>	高	地理	現代社会と気候	<p>松山市でも「ヒートアイランド現象」の実態があるのかを明らかにするため、市内各所に観測地点を設け、気温を測定し、気温分布図を作成する。</p> <p>気温分布が土地利用と関連するのではという仮説のもと土地利用図を作成する。</p> <p>重ね合わせて考察する。</p>	地形図
8	<p>中学地理的分野の授業の実践例</p> <p>思考力・判断力・表現力を育成する学び合い学習とその評価 ～日本の諸地域「中国・四国地方」の学習を例に～ 中学校社会科のしおり2015年度1学期号(帝国書院定期刊行冊子)</p>	中	地理	日本の諸地域「中国・四国地方」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸大橋の開通により、瀬戸内海の島の人々の生活にはどのような課題が生まれたか、資料を基に個人で考える。</li> <li>・グループで各自が考えた課題をまとめ、発表する。</li> <li>・交通者整備による地域の変化を構造図にまとめ、今後よりよい地域にしていけるためにそうすればよいかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章資料「架橋の島の大誤算」</li> <li>・廃校となった与島小学校の写真</li> <li>・京阪フィッシャーマンズワープの昔と今の写真の比較</li> <li>・計画中止になった観光ホテルの写真</li> <li>・教科書(「地元商店街の衰退」「橋の架かっている島の移動手段」)</li> </ul>

資料 14：中教審教育課程企画特別部会論点整理（平成 27 年 8 月 26 日）より「高等学校地理科目の今後の在り方について」



114

「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか  
〔現行学習指導要領においては、「地理的な見方や考え方」を提示〕
- ② 地理教育に求められる今日的要請への対応 [例:GIS、ESD、グローバル化、防災等]
- ③ 「歴史総合(仮称)」との関係 [グローバルな時・空間認識の育成、地理歴史科としてのまとまり]
- ④ 高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)
- ⑤ 小・中学校社会科(地理的分野)の学習との関係
- ⑥ その他、適切な指導がなされるための要件[周知・広報、研修等]





# どんな大会? Earth Science Olympiad

## 仲間をつくり、地学に触れるチャンス!

地学オリンピックは、中高校生の皆さんが地学の知識や思考力を競い合い、日本全国、さらには世界の仲間をつくり、地球を楽しむ「チャンス」です。国内では毎年開催される「日本地学オリンピック」は、地学好きの中・高校生で友だちばなしでもチャレンジできます。さらに、「国際地学オリンピック」では、世界の仲間と話し合うだけでなく、国際交流を通じて世界に目を向けられることもできます。多くの中・高校生の参加を期待しています。



第48回大会で記念撮影(レイトン大会)

## 日本地学オリンピックから国際地学オリンピックまでの道のり

9-11月	日本地学オリンピック 参加者募集 (参加資格: 中学生、高校生)	<p>■ 予選では各校で各自が課題(自由テーマ)を行い、各自の得意分野から発表されるマークシート式の試験に挑戦します。</p> <p>■ 国際地学オリンピックの参加資格のある中学生から高校生までの約50名が選考対象として選ばれます。</p>
12月	日本地学オリンピック 予選 (※ 国際地学オリンピック二次選抜)	<p>■ 「ゲオグラフィカル」のテーマに沿って課題。日本選抜では地質/地層/地殻/気象/海洋/天文/環境に関する総合的知識と、基本常識に挑戦します。</p> <p>■ 国際地学オリンピックに出るための選考。試験に合格するだけでなく、「ココがイチオシ!」で発表者の発表を聴いたり、質疑応答のやり取りなどを行います。</p> <p>■ 国際地学オリンピック10名が選考対象となり、うち1名に選考委員が指名されます。</p>
3月	日本地学オリンピック 本選 (※ 国際地学オリンピック二次選抜)	<p>■ 日本選抜の成績優秀者約10名は3月30日の日本代表選考会に参加し、選考による最終予選に挑戦してもらいます。その中から4名の国際大会の代表選手が選ばれます。</p>
3月	国際地学オリンピック 日本代表選考会 <b>国際地学オリンピック日本代表決定</b>	<p>■ 8月の合宿研修では、地質図解や、地形学に関する石・地物・化石・天体観測、野外調査実演などを実施し、オリンピックOB・OGと交流しています。</p>
4-8月	国際地学オリンピック 代表選手通信研修	<p>■ 世界中から集められた選手が筆記試験と実技試験で成績を競い、上位10%に金メダル、20%に銀メダル、30%に銅メダルが贈られます。</p> <p>■ 試験の際に国際選考チームでの国際協力野外調査、現地での現地調査、現地での自然や文化を知ることなど様々なイベントが行われます。</p>
5-8月	国際地学オリンピック 代表選手合宿研修	
9月	国際地学オリンピック	

**のぞき見! オリンピックの問題** (第48回日本地学オリンピッククイズ問題)

地質調査の際に自ら採集した試料を分析したところ、地層の定年地層を推定する際にクワリターとしてよく使われるものを発見し、その成分を分析して、その成分を分析した。

成績優秀者は、国際地学オリンピック大会に参加することができます。

地学オリンピックの問題集は <https://www.jeo.or.jp/> からご覧いただけます。

# 先輩たちが魅力語る!

**「試験はおもしろい!」**

予選

**筆記試験(予選・本選)**

例えば気象データから天気を予想する問題や、温泉の泉源の写真を見て解説文を作成させる問題、地球を太陽から遠ざけたときの地表温度の計算など、ユニークな問題がたくさん出題されます。地学オリンピックの試験は、タイムリーな地球・惑星・天文学の科学成果を取り入れた問題に挑まれるのも魅力の1つです。

**実技試験(本選・国際大会)**

岩石や鉱物の鑑定や天体望遠鏡を使う問題、海洋実技に挑戦する問題など地学を楽しくめる問題や、データを見て考察・計算するという研究者が行うような過程を体験できるような問題もあります。



**「ココがイチオシ!」**

本選

**地学好きの仲間ができる!**

日本地学オリンピックの本選や国際地学オリンピックは合同形式で行われます。参加者と地学の話題で夜更けまで語り合う経験は、同じ興味をもった仲間が集まる地学オリンピックならではの魅力です。大会後もメールやFacebookで今でもやりとりが続いています。

**フィールドワークやツアーと一緒に調査!**

国際地学オリンピックでは国際協力野外調査(ITF)、現地の高校訪問、異文化を知るツアーも魅力の1つです。ITFは10人程度の国際選考チームで行われ、地質調査、地層断面の計測、火山、気候や土砂崩壊地の観察、哺乳動物調査など毎回開催地ならではの課題に挑戦します。



## 資料 16 : 日本地図センターの地理教育に関する取組み

一般財団法人日本地図センターは、地図利用の普及と地図に関する技術の発展に寄与することを目的として、地図およびこれに関連するさまざまな事業を行っていますが、地図・地理教育の発展に資するためにも、公益的見地から次のような事業を行っています。

### 地図展その他のイベント

多くの人々に地図についての理解を深めていただくため、地図展推進協議会（地図測量関係 7 団体で構成）の主要メンバーとして、毎年「地図展」を開催しています。2015 年の第 48 回地図展は、10 月 23 日から 11 月 30 日まで 39 日間の会期で、東京都中央区において、「地図展 2015 首都東京 1945」をテーマとして開催しています。東京メトロ半蔵門線の三越前駅と銀座線の三越前駅との間の地下道（国道 4 号地下通路）という人通りの多いところを会場としたため、連日少なくとも千人以上の来場者で賑わっています。

このほか毎年、「くらしと測量・地図展」「地図ふえす」（年 2 回開催）その他の地図に関する展示会等のイベントを主催者・共催者として行っています。

### 講習会・研修会

毎年夏、日本地図センターにおいて「夏休み地図教室」を開催しています。2015 年は、7 月下旬と 8 月下旬に合計 6 日間開催し、1200 人余の小学生とその保護者に参加していただきました。

地図に関して豊富な経験を有する方々を対象として、「マップ・リーダー研修」「マップ・リーダーフォローアップ研修」（マップ・リーダー認定者を対象）を実施し、修了者をマップ・リーダー」「上級マップ・リーダー」に認定しています。参加者は、さまざまな分野で活躍されている方々ですが、教員の方も多数いらっしゃいます。2015 年は、どちらも 8 月 25 日（火）に開催し、マップ・リーダー研修会には 17 人。フォローアップ研修には 26 人の方に参加していただきました。

### 地図地理検定

毎年春と秋の 2 回、「地図地理検定」を実施しています。この検定は、基礎的な「一般」と、更に高度な「専門」の 2 クラスに分かれています。両方とも受験することもできます。成績優秀者は、「一般」では「合格」と認定し、「専門」では「地図地理力博士」「準地図地理力博士」「地図地理力 1～3 級」に認定しています。2015 年春は、6 月 21 日（日）に、秋は 10 月 15 日（日）に、どちらも東京（国土舘大学）ほか全国 6 会場で実施しましたが、ほかに大学と高等学校で団体受検をしていただいた方もいらっしゃいます。春の受験申込者（当日受験者数）は、一般 237 人（220 人）、専門 101 人（93 人）、秋の受験申込者（当日受験者）数は、一般 422 人（392 人）、専門 113 人（109 人）でした。

## 研究活動等支援

地図および地図学ならびにこれらに隣接する科学技術の研究、教育、普及等に関する活動の活性化に資するため、学会その他の団体または個人に対し、資金や物品の提供、要員の派遣などの支援を行っています。毎年度初めに公募をしており、2015年度は、日本地図学会など約40団体・個人に対し、300万円余の資金提供のほか、講師の派遣、2万5千分1地形図や月刊誌「地図中心」のバックナンバーの提供をしています。

## その他

全国の地理を専門とする教員が組織する団体として、全国地理教育研究会（主として高校教員）、地理教育研究会（小・中・高・大学教員）及び全国中学校地理教育研究会（中学教員）の3団体がありますが、これらの全国大会が2015年度も夏季に開催されました。このうち、全国地理教育研究会と全国中学校地理教育研究会の大会は、日本地図センターで開催されました。

全国地理教育研究会の「第60回 東京・日本地図センター大会」は2015年7月30日（木）～31日（金）、日本地図センターを会場として開催され、約80人が参加しました。この大会では、理事長の野々村が「地理教育における地形図の活用」と題する講演を行い、常務理事の田代が日本地図センターの業務紹介をしたほか、参加者による地図倉庫の見学も行われました。会場は、主催者からの要請により日本地図センターの研修室をアカデミックディスカウント料金で貸し出したほか、会議室を無料で提供し、職員が大会運営の補助をしました。また、大会の運営に要する費用の一部として48,500円の資金的支援をしたほか、「地図中心」のバックナンバー246冊を提供しました。

全国中学校地理教育研究会の「第56回 日本地図センター大会」は2015年8月1日（土）～2日（日）、日本地図センターを会場として開催され、約120人が参加しました。この中で、参加者による地図倉庫の見学も行われました。会場は、主催者からの要請により日本地図センターの研修室をアカデミックディスカウント料金で貸し出したほか、会議室を無料で提供し、職員が大会運営の補助をしました。また、「地図中心」のバックナンバー480冊を提供しました。

地理教育研究会の「第54回 桐蔭横浜大学大会」は2015年8月1日（土）～3日（月）に開催され、約120人が参加しました。この大会では、常務理事の田代が「これならわかる、すぐに使える地図指導10の方法と考え方」と題して模擬授業を行い、理事長の野々村と常務理事の田代が「地図力が未来を開く—これからの地図教育—」というテーマのシンポジウムに講師として参加し、それぞれ「防災と環境保全のための地図作成・地図利用」、「地図教育の4分野（小縮尺・大縮尺・主題図・地図史）について—高校を念頭に—」と題する報告をしました。また、大会の運営に要する費用の一部として、地理教育研究会に対して86,000円、神奈川地理教育研究会に対して50,000円の資金的支援をしたほか、「地図中心」のバックナンバー750冊を提供しました。

日本地図センターと中学校・高等学校の教員および教員団体とのつながりは最近だんだんと強くなっており、そのような状況の中で今年度は3団体とのかわりが特に深い年となりました。結果として、日本地図センターによる支援・協力が3団体から非常に喜ばれ、今後とも一層の支援・協力を期待されていることは間違いありません。日本地図センターとしましても、今後ともできる限りの支援・協力を続けたいと考えています。

